

事業群評価調書(令和元年度実施)

基本戦略名	2 交流を支える地域を創出する	事業群主管所属	文化観光国際部文化振興課
施策名	(2) 文化・スポーツによる地域活性化	課(室)長名	村田 利博
事業群名	① 文化・芸術による地域づくり	事業群関係課(室)	

1. 計画等概要

<p>(長崎県総合計画チャレンジ2020 本文)</p> <p>子どもから大人まで、県内どこにいても音楽や美術などの良質な芸術に触れられる機会の提供に取り組むとともに、若者文化を核としたまちづくりにも取り組んでいきます。</p>							<p>(取組項目)</p> <p>i) 県内のどこにいても音楽や美術などの良質な文化芸術に触れられる機会の提供 ii) 若者文化を核としたまちづくり iii) 若い芸術家の支援と発表の場の提供</p>			
事業群	指標		基準年	H28	H29	H30	R元	R2	最終目標(年度)	<p>(進捗状況の分析)</p> <p>長崎県美術館及び長崎歴史文化博物館において、離島地区や遠隔地を中心に実施している移動展覧会及びテレビ会議システムを活用した遠隔授業を10市町・計15回開催し、さらに各館の学芸員や外部講師による出張授業及びワークショップを複数回開催することにより、多くの県民が文化芸術を学び楽しんでいただく機会をこれまで14市町に提供することができた。 今後も、遠隔地を中心としながらも、県内全ての地域において文化芸術に触れる機会を提供することができるよう、計画的な事業の実施を図る。</p>
	目標値①			5	9	13	17	21	21市町(R2)	
	実績値②		0市町(H26)	9	13	14			進捗状況	
②/①(達成率)			180%	144%	107%				順調	

2. 平成30年度取組実績(令和元年度新規・補正は参考記載)

事業番号	取組項目	事務事業名 所管課(室)名	事業期間	事業費(単位:千円)			事業対象	事業概要 平成30年度事業の実施状況 (令和元年度新規・補正事業は事業内容)	指標(上段:活動指標、下段:成果指標)				平成30年度事業の成果等	中核事業	
				H29実績	うち一般財源	人件費(参考)			指標	主な目標	H29目標	H29実績			達成率
				H30実績							H30目標	H30実績			
1	取組項目1	総合芸術祭費	S45-	7,757	0	1,610	県展実行委員会	長崎県美術展覧会(県展)及び同移動展を県下各地で開催した。	活動指標	展覧会の回数(回)	6	6	100%	●事業の成果 ・県民の芸術鑑賞・参加機会を創出し、美術活動を普及促進することにより、本県の文化芸術の振興が図られた。 ●事業群の目標(指標達成)への寄与・鑑賞機会の少ない離島(杵岐市)、半島(平戸市)地域で高水準の美術の鑑賞機会を提供した。なお、平成30年度より運搬費高騰のため開催回数を1回減らし、5回となった。それに併せて、観覧者数も減少した。	○
				7,030	7,030	1,594					6	5	83%		
		文化振興課	7,832	7,832	1,595	5									
2		文化団体助成費	S53-	13,715	0	4,037	長崎県文化団体協議会	県内の文化団体相互の連絡協調を行い、文化芸術活動を促進して県民文化の向上を図るため、補助を行った。	活動指標	主催事業(自主事業)実施件数(件)	10	12	120%	●事業の成果 ・近年、イベントが小規模化する傾向があり、参加者数は目標には達しなかったが、事業実施件数は増えている。 様々な文化芸術分野や地域において、県民のニーズに応じた文化芸術活動の実施を支援することにより、県民文化の向上を図ることができた。	
				13,715	13,618	3,986					10	21	210%		
		文化振興課	12,722	12,410	3,987	15									
								成果指標	主催事業(自主事業)参加者数(人)	14,972	13,212	88%			
										14,228	13,451	94%			
										13,653					

3	取組項目 i	長崎県美術館運営事業 長崎歴史文化博物館運営事業 (移動展等)	H17-R2	4,603	0	805	県民	長崎県美術館及び長崎歴史文化博物館の移動展覧会やテレビ会議システムを活用した遠隔授業、出張授業、ワークショップ事業等を県内各地で開催し、優れた芸術・文化に触れる機会を提供した。	活動指標	—			●事業の成果 ・離島地区や遠隔地を中心に移動展覧会及びテレビ会議システムを活用した遠隔授業を10市町・計15回開催し、さらに各館の学芸員や外部講師による出張授業及びワークショップを複数回開催し、多くの県民に文化芸術を学び楽しんでいただく機会を提供することができた。 ●事業群の目標(指標達成)への寄与 ・移動展や遠隔授業等の実施市町数の増加に寄与した。	○	
				2,814	0	800			成果指標	県美術館・長崎歴史文化博物館の本展・移動展や遠隔授業等の実施市町数(累計)(市町)	9	13			144%
		文化振興課		3,900	0	800					13	14			107%
4	取組項目 ii	「描いてみんなね!長崎」事業	(H30 終了) H28-30	1,568	0	2,423	出版社・作家	首都圏の出版社を訪問し、他県に類を見ない本県の歴史、風土、景観等の地域資源を売り込むことにより、出版社と作家を本県への取材旅行に招聘し、マンガの作品化を実現した。	活動指標	創作を支援した出版関係者・作家数(人)	3	3	100%	●事業の成果 ・マンガ家や小説家、出版社6組を本県に招聘し、本県の豊かな地域資源を作品に取り上げてもらうことができた。 ●事業群の目標(指標達成)への寄与 ・作品化により、全国のマンガ等の読者に本県の魅力を発信することができた。	○
				1,751	1,751	2,401			成果指標	長崎県を舞台にした作品数(本)	3	6	200%		
		文化振興課									2	3	150%		
5	取組項目 ii	長崎県の地域資源を活用した創作支援・ネットワーク事業	(R元 新規) R元-3				出版社・作家	首都圏の出版社等を訪問し、他県に類を見ない本県の歴史、風土、景観等の地域資源を売り込み、マンガ、小説、脚本などの分野で作品化を図る手法の確立を目指すとともに、放送局などより幅広い人的ネットワークの構築に努める。	活動指標	創作を支援した出版関係者・作家数(人)				●事業の成果 ・各地に地域実行委員会を組織し、文化芸術をマネジメントできる人材育成と体制づくりが図られた。 ●事業群の目標(指標達成)への寄与 ・地域が目指す様々な分野で、若い芸術家にワークショップ受講と成果発表の機会を提供することができた。	○
									成果指標	長崎県を舞台にした作品数(本)	5				
		文化振興課		1,722	1,722	2,401					3	3	100%		
6	取組項目 iii	しまと若者が輝く!文化芸術による地域ブランディング事業	H30-R2				地域実行委員会	文化芸術による地域づくりの推進と人材の育成を図るため、東京藝術大学、地元大学等と連携し、離島地域で「長崎しまの芸術祭」を開催するとともに、全県域における若者を対象としたワークショップ等の取組により「ながさき愛」を高め、交流人口の拡大・人口定着を図った。	活動指標	イベント実施回数(回)				●事業の成果 ・各地に地域実行委員会を組織し、文化芸術をマネジメントできる人材育成と体制づくりが図られた。 ●事業群の目標(指標達成)への寄与 ・地域が目指す様々な分野で、若い芸術家にワークショップ受講と成果発表の機会を提供することができた。	○
				20,733	8,507	7,972			成果指標	参加人数(人)					
		文化振興課		23,907	13,992	7,973					11	13	118%		

### 3. 実績の検証及び解決すべき課題と解決に向けた方向性

#### i) 県内のどこにおいても音楽や美術などの良質な文化芸術に触れられる機会の提供

優れた芸術鑑賞の機会が少ない地域においては、県展入賞作品と地元作家の入選作品を展示する県展移動展や長崎県美術館及び長崎歴史文化博物館において実施する移動展や遠隔授業等により、県内各地において地域住民に優れた芸術文化鑑賞の機会を確保した。

・県展については、H30年度は、県展への親近感を醸成する「オークション事業」や、協賛企業を増やすため会場内に協賛会員等PRコーナーを設置する「協賛会員PR事業」、協賛企業の増加や県展への親近感を醸成するための「入賞・入選作品貸出事業」に取り組み、協賛企業が7%増、協賛金額が2%増となった。しかしながら、作品運搬費の高騰により移動展開催数は1回減となった。また、10代から50代の出品点数が8%減、全体の出品点数も6%減となり、出品点数の減少に伴い観覧者数は8%減となった。今後、出品点数・観覧者数の増加に繋がる運営方法の改善について、関係者との協議を進める。

・文化団体助成費では、自主事業である新人演奏会出演者による出張公演の開催地を離島地域にも広げることにより、県内どこにおいても良質な芸術に触れられる機会の確保に努める。

・新規事業「長崎しまの芸術祭」では、交流人口拡大の視点だけでなく、地域住民に事業に参画していただくことで良質な芸術に触れられる機会の確保に努める。

#### ii) 若者文化を核としたまちづくり

人口減少などにより地域の活力が低下するなか、地域の活力を再生するには、他県にはない個性的な取組や、若者が主体的に活躍できる新たな地域ネットワークづくりを推進することが重要である。30年度は、「描いてみんなね!長崎」事業では、出版社や作家を本県への取材旅行に6回招待し、本県を舞台としたマンガ創作の支援を行ったことにより、3件の作品化が実現した。R元年度からは新規事業「長崎県の地域資源を活用した創作支援・ネットワーク事業」として、マンガ家のほか、小説家、脚本家等へも対象を広げ、本県をテーマとしたマンガや小説等の作品化を推進することにより、本県の魅力発信に努めるとともに、幅広い人的ネットワークを構築していく。

iii)若い芸術家の支援と発表の場の提供

新規事業「しまと若者が輝く！文化芸術による地域ブランディング事業」の取組の中で、東京藝術大学の講師陣と五島市の中高校生、地域住民を結びつけた音楽セミナーや、全国的に著名な講師陣を招聘し小浜中学校吹奏楽部を中心に県内外の中高生を対象とした雲仙マーチングクリニック、吹奏楽界のカリスマと呼ばれる活水女子大学教授による宇久島での吹奏楽セミナーを開催するとともに、それぞれの地域において成果発表コンサートを実施することにより、若い芸術家の受講機会と発表の場を提供した。佐世保市では、若者文化に着目してダンスイベントを開催し、県内外から多くの若者が参加した。本事業を総合芸術祭として一体的に打ち出し、広く情報発信に努めるとともに、地域の自立を促すため国庫や協賛金など財源の多様化を進めることとしている。  
また、県展では「ふれあいワークショップ」を開催し、小中学生に体験学習の場を提供し、作品を美術館に展示した。洋画、日本画、写真、彫刻の4部門で開催し、若い芸術家の受講機会と発表の場を提供した。

4. 令和元年度見直し内容及び令和2年度実施に向けた方向性

事業番号	取組項目	事務事業名	令和元年度事業の実施にあたり見直した内容 (令和元年度の新たな取組は「R元新規」等と記載、見直しが無い場合は「－」と記載)	令和2年度事業の実施に向けた方向性		
				事業構築の視点	見直しの方向	見直し区分
1		総合芸術祭費	Webサイトに公開した作品も出品を認めるなどの募集要件の緩和や絵画教室の講師等を通じて生徒に直接出品を呼びかけたり、観覧者によるSNS発信を許可するなど、広報の強化に努めることにより、出品点数・観覧者数の増加を図る。	②③⑥⑨	時代に即した幅広い世代が参加でき、出品者・観覧者双方にとって魅力ある総合美術展となるよう、県展実行委員会をはじめ関係者との協議を進め、県展の活性化を図るとともに、出品点数・観覧者数の増加にも繋げていく。	改善
2	取組項目 i	文化団体助成費	県庁8階展望ラウンジにピアノを設置し「県庁ラウンジコンサート」を開始するとともに、新人演奏会出演者の出張公演を初めて離島(吉崎市)で開催するなど、新人演奏家の発表機会と県民の優れた芸術鑑賞機会の増加を図った。	②⑥	引き続き、「県庁ラウンジコンサート」や新人演奏会の出張公演等を充実することにより、文化団体の活性化を図るとともに、県民の良質な芸術鑑賞機会の確保に努める。	改善
3		長崎県美術館運営事業 長崎歴史文化博物館運営事業 (移動展等)	—	—	令和2年度も、引き続き未実施市町の学校や団体等と調整を行い、移動展覧会等の実施に努めていく。	現状維持
5	取組項目 ii	長崎県の地域資源を活用した創作支援・ネットワーク事業	(R元新規) 当初「描いてみんね！長崎」は、若者文化を対象を絞っていたが、小説、脚本等にも対象範囲を広げた。また、切れ目のない創作支援により、出版社等、作家等との強固なネットワーク作りの視点を盛り込んだ。	②⑥	引き続き、マンガ、小説、脚本など他分野での作品化を実現することにより、幅広い世代への長崎の魅力発信を図るとともに、各出版社、作家のニーズを的確に把握することで、より強固なネットワーク構築に努める。	改善
6	取組項目 iii	しまと若者が輝く！文化芸術による地域ブランディング事業	国庫を活用するとともに、市町に人的、財政的負担を求めることにより、財源の多様化を推進した。	②③⑤⑥	地域実行委員会と連携し、より高水準の文化芸術事業を継続できる体制の強化と人材育成を図る。また、総合芸術祭としての一体的な打ち出しや、一流アーティストの招聘に加えて、本県の強みである国際交流や離島の豊かな地域資源の活用の要素を盛り込みながら、更なる交流人口の拡大を図る。	改善

注：「2. 平成30年度取組実績」に記載している事業のうち、平成30年度終了事業、100%国庫事業などで県の裁量の余地がない事業、公共事業評価対象事業、研究事業評価対象事業、指定管理者制度導入施設評価対象事業については、記載対象外としています。

【事業構築の視点】

- ① 視点① 事業群としての成果目標に対し、特に効果が高い事業の見極め、事業の選択と集中ができていないか。
- ② 視点② 指標の進捗状況に応じて、その要因分析及びさらに高い効果を出すための工夫、目標に近づけるための工夫を検討・実施できているか。
- ③ 視点③ 人員・予算を最大限効果的に活用するための事務・事業の廃止・見直しができているか。
- ④ 視点④ 政策間連携により事業効果が高められないか。事業群としてリーダーの明確化、関係課の役割分担・協力関係の整理ができているか。
- ⑤ 視点⑤ 県と市町の役割分担・協力関係の整理・認識共有ができているか。
- ⑥ 視点⑥ 県と民間の役割分担・協力関係の整理・認識共有ができているか。
- ⑦ 視点⑦ 戦略的に関係者の行動を引き出せているか。
- ⑧ 視点⑧ 国制度等の最大限の活用が図られているか。国へ政策提案(制度改正要望)する必要はないか。
- ⑨ 視点⑨ 経済情勢等、環境の変化に対応した効果的・適切な見直しとなっているか。
- ⑩ その他の視点